

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
潮風公園・台場公園		（指定管理者名） 東京臨海副都心グループ （団体の概要） (株)東京臨海ホールディングスが統括し、東京港埠頭(株)が実績と専門のノウハウを生かした維持管理を行い、(株)東京レポートセンターが近隣ビルと駐車場の管理を行う。			
指定期間					
H 28.4.1～ R 8.3.31（10年間）					
2 施設名		3 収支（単位：千円）			
東京都立潮風公園 東京都立台場公園	項目	令和3年度 金額	令和2年度 金額	公園別支出額	
	収入計	112,890	92,634		
	内 指定管理料	112,890	92,634	《潮風公園》 94,257千円	
	内 利用料金	0	0	《台場公園》 9,921千円	
	支出計	104,178	85,875		
	収支差	8,712	6,759		
4 管理運営の概要					
特記すべき事項					
<p>◆東京2020大会開催前・開催中の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技会場整備に当たり、組織委員会と打合せや現場立会などを都度行うことで綿密に情報を共有した。 （立会・連絡調整等72回） ・大会期間中に発生した不具合や要望などに迅速に対応し円滑な大会運営に寄与した。 <p>◆歴史と文化を活かした公園管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QRトランスレーター導入 台場公園の歴史を多言語や音声でもご案内できる環境を整え、紙媒体のパンフレットから移行を図りペーパーレス化にも寄与した。 ・AR技術の取り入れ 公園の魅力向上のため、スマホ画面上で台場公園内砲台跡レプリカに大砲を再現できるようにSNS等で情報発信を行った。 案内板設置にあたっては史跡指定されているため港区教育委員会と協議・調整を行った。 <p>◆東京2020大会後の再開園に向けた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮風公園：施設撤去や原状復帰に向けた工事については組織委員会と綿密に情報を共有した。 （立会・連絡調整等119回） ・台場公園：来園者目線で、撤去工事の進捗に伴う段階的な公園開放を隣接のお台場海浜公園と一体的にご案内し利便を図った。 ・再開時の集客対策として休園中にも園内の開花情報等をTwitter・Instagramで積極的に発信し利用者の興味・関心の維持に努めた。 <p>◆コロナ禍におけるイベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催を心待ちにしている来園者の目線に立ち、万全なコロナ感染防止対策※を施した上で潮風公園南側の再開園早々にイベント（ミニ門松づくり教室）を開催した。 ※受付での手指消毒・検温、ソーシャルディスタンス確保（会場面積拡張、募集人数縮小）、所要時間短縮（事前準備により工程の一部を省略）等 <p>◆徴収額システム導入によるDXへの貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに導入した徴収額システムによりwebでの撮影受付を可能とし、お客様の利便性を高めると共に事務の効率化、簡素化を図った。 ・潮風公園（南側）を再開園した令和3年12月以降の撮影件数30件のうちweb受付が24件（80%）を占め、FAXレス化にも貢献した。 <p>◆新型コロナウイルス感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付窓口で手指消毒液・飛沫防止アクリル板を設置、トイレにハンドソープ・ペーパータオルを設置し安心して利用できる環境を整えた。 ・「新しい公園利用ルール」「新型コロナ見守りサービス」「TOKYOワークションアプリ」「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」利用推奨のためHP上や園内各所にポスターを掲示、また独自にソーシャルディスタンスバナーを購入し各所に設置して、利用者の意識啓発に努めた。 					
5 管理状況（維持管理）					
<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画に基づき、施設点検や修繕を着実かつ適切に行った。実施にあたっては当社独自で作成の不具合処理調書を活用して速やかに補修作業を行い施設の適正な維持管理に努めた。また、東京2020大会準備工事のため潮風公園が閉鎖されている期間に、開園時では実施しにくい電気設備や園内全域の給排水設備工事を予防保全対応として都と協議しながら実施した。 ・既契約電力量では大会運営をしつつ公園機能を維持するには不足しているため、新たに電力量を増設することとし、工事に向けて経済産業省への提出書類の準備・調整を担った。 ・昨年度の台風で倒伏した樹木に類似する樹木を中心に樹木医が診断して危険木を早期発見し、都・組織委員会と協議しながら対象木を伐採（危険木伐採工事）することで倒伏の未然防止につなげた。 					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
潮風公園	4.6	4.6	4.6	4.5	4.6
台場公園	4.4	4.5	4.2	4.3	4.4
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
潮風公園	20,427	令和3年4月～11月は東京2020大会開催に伴い全域閉鎖。12月1日から公園南側のみ再開園した。再開後は近隣住民による利用や遠足など団体利用も多く見られた。前年度は年間を通して全域閉鎖のため比較対象外とする。			
台場公園	15,092	令和3年4月～10月は東京2020大会開催に伴い閉鎖し11月1日から再開園となった。前年度と比較すると、開園期間の相違（前年度は8ヵ月間、今年度は5ヵ月間）の影響で年間利用者数は減少したが、月平均で比較すると、今年度3,018人/月、前年度2,178人/月と今年度の方が800人超多くになっている。			
合計	35,519				

東京臨海副都心グループ 都立潮風公園

様式1ー②

本年度、力を入れて取り組んだ5つの取り組み

東京2020
大会開催前・
開催中の対応

東京2020
大会後の再開
園に向けた
対応

コロナ禍におけ
るイベント開催

徴収額システム
導入によるDX
への貢献

コロナウイルス
感染防止対策
の徹底

1 東京2020大会開催前・開催中の対応

(1) 競技会場施工期間および大会期間中における現場での対応

競技会場整備にあたり、組織委員会と打合せや現場立会などを都度行うことで、綿密に情報を共有することができた。また、大会期間中に発生した不具合や要望などに対して迅速に対応し、円滑な大会運営に寄与した。

【対応事例】

・会場施工に伴う施設設備の確認・調整

セキュリティーカメラ設置、インフラの総点検、樹木移植などの調整立会や日々の鍵貸出などについて打合せや現地立会を行った。

(打合せ、立会、連絡調整等 累計72回実施)

・公園施設の維持管理

大会開催にあたり、緑地維持管理作業の実施により選手や関係者の通行動線を確保した。また、電気設備・給排水設備の点検作業を実施し、照明の不点灯や配管の詰まりなどが不具合が発生しないよう関係施設の予防保全に努めた。その結果、大会期間中の公園施設での不具合などは発生しなかった。

・清掃業務の管理

東京2020大会清掃基準を満たすために公園の日常清掃のほか組織委員会の指定する清掃業者と委託契約を締結し基準を満たす清掃環境を提供した。

・直営による一斉作業

大会開催に向けて枯れ枝除去、支障枝の剪定、雨水槽清掃などを実施し大会会場にふさわしい環境を提供した。(6/30)

・危険生物への事前処置

人に危害を加える恐れのあるカラス、スズメバチへの対応として巣の点検と撤去を実施した。

カラスの巣作りの点検と撤去 (5カ所) スズメバチ巣の駆除 (4カ所)

・オリンピック関係者へのおもてなし

オリンピック関係者のおもてなしの一環として、選手や関係者が利用する会場周辺の通路に夏の花として代表的なヒマワリを100本以上植えて開花させ、景観の創出に貢献した。

・アクレディテーションパス等、オリンピックセキュリティーに関する申請調整

大会前後および大会期間中の会場内への出入りには、アクレディテーションパス等それぞれ異なった申請によるパスの発行が義務付けられていたため、公園社員や、維持管理・保守点検委託業者などについても調整を行い、会場での安全管理や、不測の事態への緊急対応準備などを徹底した。



セキュリティーカメラ設置立会



ロックダウン インフラ総点検立会



スズメバチ・カラスの巣除去



メディア関係通路にヒマワリ開花

2 東京2020大会後の再開園に向けた対応

(1) 競技会場施設の撤去および原状復旧に向けた工事への立会、調整の実施

大会閉会後の競技会場施設撤去や、公園の現状復旧に向けた工事が始まり、組織委員会と園内各所を現場立会、確認などを行った。

(打合せ、立会、連絡調整等 累計119回実施)

大会開催による施設の破損や不具合などが発生していたことから、原因の特定を行い、組織委員会と現場検証や図面などの資料提供、専門業者の紹介など調整を重ね、破損・不具合を解消し、長期間閉鎖していた公園の再開園に向けて安心・安全な環境を取り戻すことができた。

また、組織委員会が実施する公園現状復旧工事と調整を図りながら、指定管理者として施設の更新工事などを並行して実施した。

【対応事例】

- ・公園北側 太陽の広場等芝生の復旧
- ・北側第2キュービクル接地抵抗 許容値の外れ
- ・南側駐車場 バス衝突による照明柱の破損
- ・北側パーゴラ・ベンチ補修工事
- ・北側太陽の広場まわりフットライト復旧立会、点灯確認
- ・南側・北側撤去工事の完了、引渡し立会

(2) 樹林地管理およびトイレ特別清掃の実施

新型コロナウイルス感染拡大による大会の延期により、公園閉鎖期間が長期化したことから、樹林地管理や園内清掃が行き届いていなかったため、公園南側、北側それぞれの利用再開に向けて、樹木剪定等の樹林地管理およびトイレ特別清掃を実施し、再開園時には安心安全で快適な公園環境をご提供した。
樹木剪定: 157本 枯損木処理15本 実生木等伐採: 55本
トイレ特別清掃: 5か所

(3) 閉園中の公園についての情報発信

利用者の興味や関心を維持していただき、再開園時には多くの利用者に公園へご来園いただけるよう、休園中の園内の開花情報や季節の移り変わりなどTwitterで情報発信を行った。さらにInstagramの導入により情報発信の充実を図った。潮風公園Twitter閲覧数は令和元年度3,317件、令和2年度86件から増加し、今年度は5,349件となった。情報発信により、再開園に向けて公園への関心を高めることができた。

3 コロナ禍におけるイベント開催

(1) 「ミニ門松づくり教室」の開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響により昨年度実施できなかった「ミニ門松づくり教室」を実施した。今年度は、受付での手指消毒や検温の徹底、人数を前回実施の59名から26名に削減し、会場を大きくすることで参加者の広い作業場を確保しソーシャルディスタンスを保った。さらに門松土台の一部を事前制作し工程を省いて所要時間を短縮することで、感染リスクを最小限に抑えた上での実施とした。



南側撤去工事の完了、引渡し立会



北側撤去工事の完了、引渡し立会



パーゴラ・ベンチ補修工事



樹林地整備前



樹林地整備後



Twitterでの情報発信



ミニ門松教室 写真

(2)新規イベント開催に向けたデモンストレーションの実施

新規イベント「パークフィットネス教室」の実施に向け、パーソナルトレーナー、テレビタレントとして活躍しているチャックウィルソン氏(日本にエアロビクスエクササイズを紹介した第一人者)と具体的なプログラムやスケジュールについて調整を実施し、業務協定書を締結した。また、弊社社員18名が参加協力の下「パークフィットネス教室」の社内デモンストレーション(体験会)を実施し、公園北側開園後のイベント実施に向け調整を進めた。



社内デモンストレーション写真

4 徴収額システム導入によるDXへの貢献

(1)撮影受付のWeb化

撮影受付は、昨年度まで電話・FAXのみで行っていたが、今年度からホームページ上に撮影申請ページを開設してwebでの受付を開始し、お客様の利便性を高めると共に事務の効率化、簡素化を図った。

潮風公園(南側)を再開園した令和3年12月からの撮影件数30件のうち、web受付が24件(80%)を占めておりFAXレスに貢献した。



撮影申請ページ写真等

5 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

(1)東京2020大会期間前後における新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

東京2020大会準備・撤去工事で、事務所を訪れる工事関係者や、大会期間中の関係者用として、受付窓口手指消毒液・飛沫防止アクリル板の設置、トイレにハンドソープ・ペーパータオルを設置し、安心して利用できる環境を整えた。

こうした取り組みの結果、感染者を出すことなく安全な環境を維持することができた。



手指消毒など設置写真

(2)利用者への意識啓発

潮風公園における感染症予防のため「新しい公園利用ルール」や「新型コロナ見守りサービス」「TOKYOワクションアプリ」「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」利用推奨ポスターをホームページや公園管理所、掲示板、トイレに掲示した。また独自にソーシャルディスタンスバナーを購入し設置することで、利用者への意識啓発に努めた。



ソーシャルディスタンスバナー設置



利用推奨ポスター



利用推奨ポスター掲示

東京臨海副都心グループ 都立台場公園

歴史と文化
を活かした
公園管理

公園再開に
向けた情報
発信

東京2020
大会開催
前・開催中
の対応

本年度、力を入れて取り組んだ3つの取り組み

1 歴史と文化を活かした公園管理

(1) QRトランスレーターへの導入

台場公園の歴史を紹介するため、QRトランスレーターを導入した。現在のHPやリーフレットは、日本語と英語での発信に留まっていることや、文字を中心とした紹介であることから、QRトランスレーターのHPへの掲載や隣接するお台場海浜公園の案内看板、待合所や案内所等にQRトランスレーターを掲示することで、多言語対応や音声対応が可能な環境を整備した。

また、園内各所に点在させることで公園の回遊性を高めるとともに、リーフレットの作成枚数を削減するなどペーパーレス化に寄与した。



園内各所へのQRトランスレーター掲示

(2) AR技術の活用

台場公園には、江戸末期に存在した砲台跡のレプリカが設置されている。来園者が、かつて大砲があったことをよりイメージしやすいようにAR技術を活用し、大砲のある風景をスマホ上で再現できるようにするため、砲台跡付近にAR読み込み用QRコード及び手順書を記載した看板を港区教育委員会と協議の上設置した。これにより、公園の新たな楽しみ方を提案することができた。



ARによる砲台の復元 手順書看板



砲台 復元前

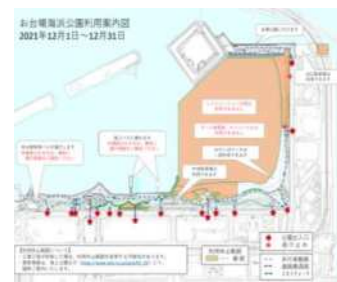


砲台 復元後

2 公園再開に向けた情報発信

(1) 台場公園への迂回ルートや開園時期のHP掲載による情報発信

大会閉会後、隣接するお台場海浜公園とともに大会撤去工事の進捗に合わせた段階的な公園開放に伴い、わかりづらくなってしまった台場公園への迂回ルートや開園時期を海上公園と一体的に現地やHPで案内し、来園者目線での情報発信に努めた。



迂回ルートなど図面写真

3 東京2020大会開催前・開催中の対応

(1) 競技会場施工および大会期間中における現場での対応

競技会場整備にあたり、組織委員会と園内各所の現場立会、確認などを行うことで、綿密に情報共有を行った。

また、大会期間中には、都度発生した不具合や要望などに対して迅速に対応し、円滑な大会運営に寄与した。

【対応事例】

大会前

- ・セキュリティカメラ設置位置の現地調整立会
- ・バルーンカメラ設置位置の現地調整立会
- ・競技会場施工に支障となる樹木の移植や支障枝の剪定への立会

大会期間中

- ・オリンピック大会とパラリンピック大会間の緑地維持管理作業の実施



セキュリティカメラ
設置立会



バルーンカメラ
設置立会